

授業改善等に関する報告書（2023 年前期）短期大学部

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2023 (前期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ことばと生活	大塚 みさ	日常生活におけることばの存在を多角的に知ってもらうことを目標に、授業を展開してきました。そのため、「授業の理解度」「説明の分かりやすさ」「双方向授業等の工夫」「パワポ等の資料のわかりやすさ」等が全体平均を上回っていた点に安堵しました。予習復習時間は1.13hと平均を上回る長さであり、大いに感心しました。一方「成長の実感」や「さらに学びたいかどうか」という点では若干平均値を下回っていた点が残念でした。この点を次回は工夫していきます。自由記述欄には「ことばについての理解・関心が深まった」「若者ことば／やさしい日本語について深く学べた」といった内容に関するコメントのほか、「グループワーク」や「responでのリアルタイムな意見交換」「スムーズな進行」等の授業実施方法に関するコメントも寄せられており、励みになりました。
コミュニケーションスキル入門	鹿島 千穂	昨年度から導入したディベートを今年度も引き続き実施しました。その結果として大部分の項目で平均を上回り、受講生の多くが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。本授業で学んだことを、今後履修する科目や就職活動、日常生活で活かしていきましょう。
ノンバーバルコミュニケーション論	西脇 智子	オンデマンド授業でしたが履修生の皆さんが意欲的に授業に取り組んで満足してくれたことを大変嬉しく思います。また多くの項目で平均を上回りましたことは大変励みになりました。毎年内容は変化していくこととなりますが説明の分かりやすさや教材のわかりやすさなど評価を得た部分について、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
ビジネストーク演習	鹿島 千穂	多くの項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。「説明のわかりやすさ」や「声の聞き取りやすさ」等の項目で高評価を得たことについては、みなさんに身につけてもらいたい側面を教員としてデモンストレーションできたように思え、満足しています。本授業で身につけた知識や技能を、今後履修する授業や就職活動、日常生活のさまざまな場面で活かしてもらえると嬉しいです。
ビジネスマネジメント	板倉 文彦	「ビジネスマネジメント」に関する集計結果をレーダーチャートで確認すると、各アンケート項目が当該区分平均に沿った値を示していました。しかしその中で気になった項目としましては「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったですか？」が平均との差が0.27ポイントと最も大きくなっているところがあげられます。当該科目はオンデマンド授業でパワーポイントによる動画および配布資料(PDF)にて授業を実施しましたが、コンテンツも含めてさらなる改善が必要である可能性を感じ、今後に生かしていきたいと思えます。フリーコメントからは、ビジネスの基礎を身につけ考えるきっかけとなったといった意見から、企業研究や自身の将来を考えるうえでの知識を得ることが出来た、ビジネスに関する考察力が身に付いた等の意見も聞かれました。これらコメントからは、科目の目的を果たせた面も感じられ、これらを参考として今後さらなる改善を経てより充実度を上げていきたいと考えています。
ビジネスリテラシー入門 (①②)	板倉 文彦	「ビジネスリテラシー入門 (①②)」に関する集計結果をレーダーチャートで確認すると、各アンケート項目がほぼ当該区分平均に沿った値を示していました。しかしその中で気になった項目としましては「この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか？」が平均との差が0.33ポイントと最も大きくなっているところがあげられます。この科目では主に社会に出た後のビジネスリテラシーについて学んでいますので、受講した学生の皆さんには実感が持てなかった面もあった可能性があるかと感じ、今後改善すべき点と認識しました。フリーコメントからは、ビジネスリテラシーに関する理解が深まり、社会に出た時の知識やマナーが身に付いたというコメントと共に、毎週課題としていた新聞課題を通して新聞を見る習慣がついたとの嬉しいコメントも頂けました。今後も、これらを励みに更なる授業改善に取り組みたいと考えています。
ビジネスリテラシー入門 (③④)	板倉 文彦	「ビジネスリテラシー入門 (③④)」に関する集計結果をレーダーチャートで確認すると、各アンケート項目がほぼ当該区分平均に沿った値を示しており、総合的な満足度も平均値以上とひとまず安堵しました。しかしその中で「担当教員の声や言葉は、聞き取りやすかったですか？」が平均値より0.17ポイント低い値となっており、授業中聞き取れないところがあったものと推察し今後の反省材料としたいと思います。フリーコメントからは、文書作成・挨拶・言葉づかい等の社会に出た時必要となる知識やマナーが身に付いたというコメントに加え、実際のアルバイトでも即座に生かすことができたこともあったとのことで、内容が社会で通用することに安堵しました。また、毎週課題としていた新聞課題を通して新聞を見る習慣がついたとのコメントと共に、社会人経験を通じた話が分かりやすかったとの評価も頂きましたので、今後もこれら意見を参考に授業を改善していきたいと考えています。

[2023 (前期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ライティングスキルa	鹿島 千穂	アンケート回収率が50%と低かったため一概には言えませんが、それでも大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答した結果を嬉しく思います。次年度もさまざまな文章の執筆に挑戦することで、ライティングの楽しさを経験できる授業を展開したいと考えています。
ライティングゼミa	高瀬 真理子	人数制限を付けて、みっちり実習する授業ですから、少ししんどかったかもしれませんが、よく頑張ってくれました。構成を考えて、うまく書くコツはなんとなく分かってくれたと思います。みんな文章が締まってきました。よく頑張ったと思っています。
医療とコミュニケーション	西脇 智子	履修生の皆さんが意欲的に授業に取り組んでくれたことを大変嬉しく思います。なお、説明のわかりやすさや教材のわかりやすさの項目で平均を下回りました点を参考にして今後の授業改善に取り組んでいきたいと思っています。
小説と戯曲の世界	高瀬 真理子	谷崎の活動した明治末期と現代との時代の落差が大きくて、谷崎の美的世界を伝えるのに苦労しました。楽しめた人は良かったですが、美とは美しいばかりではないので、合わない人もいたかもしれません。なんとか、これからも文化の時代的ギャップを埋めて、想像しやすい世界観が提示できるように工夫したいと思っています。
情報学への招待	板倉 文彦	「情報学への招待」に関する集計結果を見ると、総合的な満足度が当該区分平均を若干下回る結果となりました。学生の皆さんがその判断に至ったと推察される項目として、「自身の成長が実感できたか」と「この科目（系・分野）をさらに学びたいと思いましたが？」の2つの設問のみが3点台のスコアとなっており、情報学という専門的な学問領域の内容として難しい面もあった可能性を感じており、今後の反省材料としたいと思います。しかしフリーコメントからは、「情報の本質を知ることが出来た」や経済、デジタル社会、権利といった「情報」に関連する知識群を修得できたとの内容が記されており、情報学の導入科目としてのある程度の役割は果たせたものと考えています。また、カリキュラムの中でIT企業に協力を頂いた授業を実施しましたが、こちらも好意的なコメントが寄せられましたので、今後も積極的に取り入れていきたいと考えています。
卒業研究 a	大塚 みさ	2名の留学生を迎えて24名でのゼミとあって、毎回大変活気のある授業を展開できました。何より「テーマ発表会」→「中間発表」と回数を重ねる度にみなさんのプレゼンスキルが飛躍的に向上する点に大変感心していました。その裏には日々の積み重ねがあったことを、「予習復習時間」が平均値を上回る1.39hであった点から感じ取りました。また、「成長実感」の数値も高く、とてもうれしく思いました。自由記述にも肯定的なコメントが多く集まりました。プレゼンおよびプレゼンでのディスカッションを通して、思考力や言語化する力が高まったこと、そして他のメンバーのプレゼンから学ぶことが多かったことなどが書かれており、みなさんの「自ら学ぶ力」を感じさせられました。また、「やさしい日本語」についての活動によってチームでの課題解決力が身についた、交流が深まったといったコメントもありました。後期はいよいよ卒業研究レポートの完成を目指していきますが、共に学ぶことの意義が実感できるように進めていきたいと思っています。
卒業研究 a	板倉 文彦	「卒業研究 a」の授業アンケート結果は、ほとんどの項目において当該区分平均を上回る評価となりました。本科目はゼミ科目で、学生のみなさんによる積極的な参加を求める内容となっていますので、この評価は学生の皆さん自身の努力の結果が現れたものと推察します。ゼミでは「企画力を身に付ける」をテーマとして、グループワークや個人活動を通して「企画立案-調査-発表」のプロセスを実施してきました。フリーコメントでは、これらを通して協働力(コミュニケーション能力)や企画立案に関する知識が深まり企画力が養えたこと等が記されていました。今後も学生の皆さんが自主的に取組みつつ、スキル・知識を身に付けられるよう改善を進めていきたいと考えています。
卒業研究 a	高瀬 真理子	自分の好きな作品の作品分析にチャレンジすることを認めてから、みなさんの努力が光り始めました。やはりモチベーションは大事だと思っています。後期の研究レポートへうまく結びついていけるよう、サポートしていきたいと思っています。
卒業研究 a	橋詰 秋子	多くの項目で全体平均を上回る評価がでており、嬉しく思います。少人数のゼミで心配しましたが、少人数であるが故に教員の目が行き届くというメリットを指摘するコメントもありました。後期も、ゼミ生の卒研レポートの執筆に向けて工夫して取り組んでいきます。

[2023 (前期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒業研究 a	鹿島 千穂	<p>大部分の項目で平均を上回る評価をもらえたことを嬉しく思います。特に「この科目をさらに学びたいと思いましたが」の項目においては、全員が「とてもよくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答していました。後期の「卒業研究b」ではそれぞれの研究テーマをさらに深掘りしていきましょう。私も全力で執筆指導を行います。</p>
日本語学入門 a	大塚 みさ	<p>オンデマンド授業でもみなさんが興味を持ち、主体的にかつ楽しく学べる教材作りとフィードバックに努めてきました。そのため、「双方向授業等の工夫」「パワポ等の資料のわかりやすさ」「授業への意欲的な取り組み」等が全体平均を上回っていた点に安堵しました。</p> <p>また、予習復習時間は1.32hと平均を上回る長さであり、感心しました。一方「理解度」が若干平均値を下回り、「respon課題が難しい点があった」という記述もあったので、さっそく後期（「日本語学入門b」）から見直します。</p> <p>自由記述欄には「日本語についての理解・関心が深まった」「外国人視点の日本語に興味を持った」「疑問を持ちそれを解決する力が身についた」といった感想が多数寄せられていてうれしく思いました。</p> <p>今後もよりよい授業を提供していけるよう、努力したいと思います。</p>
日本文学の歴史 a 古代	福島 史子	<p>IIが高評価であったことに安堵しています。これは十分に予習復習時間をとってくれたこと（問2.）が大きな要因の一つでしょう。授業中、聞き慣れない用語をはじめ、それはどういうことを意味するのか等、皆さんがしっかりと反応を示し、質問してくれたこともよかったです。</p> <p>問12. 具体的に成長を実感したこと 問19. 授業を受けて良かったことに「普段自分からはあまり手を出したことがない分野」「古代の文学について理解が深まった」「新鮮で楽しく受講できた」という声も寄せられました。また「日本の古き良き文学」「政治との関係を知ることが出来た」「文学から当時の背景を推測する力が身についた」という感想もありました。文学史と政治史・思想史が不可分であること、文学の背景に関心を持ってもらえたこと、さらに、この科目（系・分野）をさらに学びたいと思ってもらえたこと（問13.）は嬉しく思われます。</p> <p>この授業を契機に、古典文学作品を少しずつでも実際に読んでもらえたら幸いです。そうすることによって文学史とその背景に対する興味も深まると思われます。</p>
日本文学の歴史 c 近代	高瀬 真理子	<p>オンデマンドでしたので、誤解がないように伝わるか、どの程度の資料が必要かと欲張り、資料が多めになったり、私の話がトータルで長めになったり、いろいろありました。</p> <p>オンデマンドは、一週間いつでも観られる代わりに、自分がしっかりしないと聴講しそびれます。その意味で、残れた人は頑張れた人です。授業ごとのアンケートがしっかり書けた人は、素晴らしかったです。</p>
文学とコミュニケーション	高瀬 真理子	<p>コミュニケーションの観点から、文学作品を読解し、同時に文学的な問題も読み解いていくので、作家と作品世界に興味を持ってくれた人には、とても面白かったようです。時間の関係で、なかなかゆっくりDVDなどの副教材を使いこなせなかったのが、悔やまれますが、文学とコミュニケーションの両面から、面白さを感じてくれた人が多くあって、良かったと思います。</p>